

ハイチ学生が義足提供を感謝

'11/1/16



1年前のハイチ大地震で被災し、国際医療ボランティア団体AMDA(本部・岡山市北区)から義足の無償提供を受けたガエル・エズナールさん(18)が来日し15日、岡山市北区での記者会見で感謝の言葉を述べた。16日は神戸市で阪神大震災の被災者と交流する。

エズナールさんは「歩いている今の姿を想像できなかった。支えてくれた皆さんのおかげ」と語った。「神戸の被災者と早く会って震災の体験をどう乗り越えてきたかを聞きたい」とも話した。

首都ポルトープランスの自宅で昨年1月12日に被災した。右脚がコンクリート片に押しつぶされ、切断手術を受けた。

心が沈む日々を送る中、友人に教えられた現地のAMDA義肢製作工房を訪問。昨年10月、AMDAが派遣した義肢装具士八尾直毅さん(30)から義足を贈られた。現在は松葉づえを使って歩け、大学の予科に通っている。

14日にAMDAの招待で来日。神戸市も訪問し、21日帰国の途に就く。AMDAの菅波茂代表は「神戸の被災者から人生の指針をつかんでほしい」と話している。